

令和5年度 第4回 富士宮市少子化対策推進本部会

日 時 令和6年2月29日（金）
午後4時～

場 所 市役所3階庁議室

次 第

1 開 会

2 本部長あいさつ

3 議 事

(1) 市政モニターアンケート（少子化への対応）の結果について

(2) 令和6年度新たに実施（拡充）する少子化対策関連事業について

(3) 富士宮市の人口動態統計について

4 その他

5 閉 会

<添付資料>

- ・ 市政モニターアンケート（少子化への対応）結果・考察 資料1
- ・ 令和6年度新たに実施（拡充）する少子化対策関連事業 資料2
- ・ 富士宮市の人口動態統計 資料3
- ・ 第5回富士宮市少子化対策推進本部幹事会議事録 資料4

令和5年度 第3 回市政モニターアンケート

「少子化への対応」について

回答期限：令和6年1月8日(月)

趣 旨

全国的に少子化が進む中、富士宮市では「第5次富士宮市総合計画」及び「富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、これまで庁内関係部署で、さまざまな少子化対策を行いました。しかしながら、本市の年間出生数は、20年前の平成15年は1,175人でしたが、平成27年には1,000人を割り込み、令和4年には665人となるなど、少子化に歯止めが効かない状況が続いています。

今後も少子化が加速していけば、市政運営にさまざまな影響を及ぼすことが想定されることから、現在、市を挙げて少子化対策を検討し、具体的な対応策を実行しているところです。

そうした中、今回、皆さんの少子化への対応に関する意識を伺うため、このアンケートを行います。

※質問の趣旨に沿わない回答については集計結果には反映しません。
アンケートテーマに関すること以外の御意見は「市政モニター提案」を御利用ください。

アンケート実施日 令和5年12月18日(月)～1月8日(月)

アンケート対象者 対象者 50人 うち回答者40人(回答率 80%)

●全員に伺います。

問1 人口減少や高齢化といった人口問題に対して不安は感じますか。
(当てはまるもの一つ)

選択項目	回答数
1 非常に不安	20
2 まあまあ不安	18
3 普通	1
4 あまり不安ではない	1
5 不安を持ったことがない	0

●問1で「1非常に不安」「2まあまあ不安」と回答した人に伺います。

問1-2 どのような不安がありますか。(複数選択)

選択項目	回答数
1 国や地方が税収減となり、行政サービスが低下する	12
2 年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人の負担増	29
3 地域を支える担い手の不足や地域活力の低下	19
4 過疎化の進行による土地の荒廃	15
5 労働力人口の減少などによる地域産業の衰退	12
6 空き家が増加して地域が寂れるという不安	10
7 人口減少による消費減などで、商店などのにぎわいが喪失	11
8 地域の伝統や文化の喪失	7
9 公共料金が高くなるという不安	13
10 災害が起きた場合に支えてくれる人がいないという不安	6
11 スポーツ、文化、娯楽などの余暇を楽しむ機会の減少	3
12 その他(自由記述)	

●全員に伺います。

問2 少子化が進む要因は何だと思いますか。（複数選択）

選択項目	回答数
1 雇用が不安定だから	12
2 収入が低いから	27
3 残業が多い、休暇が取れないなどワークライフバランスが崩れているから	13
4 未婚化・晩婚化が進んでいるから	28
5 妊娠、出産に対する支援が少ないから	14
6 子育ての心理的・肉体的負担が大きいから	26
7 子育てと仕事の両立が難しいから	29
8 安心して子どもを産み育てられる環境ではないから	11
9 子育てや教育にお金がかかりすぎるから	24
10 自分や夫婦のみの生活を大切にしたい人が増えたから	12
11 周囲の家事、子育てへの理解が得られないから	13
12 その他(自由記述)	

●全員に伺います。

問3 未婚化や晩婚化が少子化の要因と考えた場合、未婚化や晩婚化に歯止めをかけるために、必要な取組は何だと思いますか。（複数選択）

選択項目	回答数
1 婚活支援(婚活イベントや婚活セミナーなど)	16
2 出会いや交流機会の創出(趣味の講座やレクレーションの実施など)	18
3 新婚世帯の住宅等の費用にかかる支援	17
4 就労支援(就活イベントや就活セミナーなど)	11
5 小中学校でのライフデザイン教育	14
6 子育て支援(仕事と子育ての両立支援など)	19
7 子育て・教育にかかる経済的支援	29
8 結婚は個人の問題なので、行政が支援をする必要はない	2
9 その他(自由記述)	

●全員に伺います。

問4 出産しやすい環境として、どのような支援があればよいと思いますか。
(当てはまるもの全て)

選択項目	回答数
1 産休・育休制度の充実	24
2 妊娠・出産に関する相談・地域のサポート体制の充実	22
3 妊娠・出産時の経済的負担の軽減	24
4 支援は必要ない	1
5 その他(自由記述) 今まで色々な対策をしてきてくれた事には感謝します。でも抜本的な対策がされておらず企業の優待をしただけでなくそこに雇用がきちんとされている。それと富士宮市の企業の給料体制が低いので他の県・市に仕事に出てしまいそこで、結婚して新築の家を建ててる人が多い。	

●全員に伺います。

問4-2 あなたが問4で少子化の支援として選んだ理由を教えてください。
(自由記述)

自分の実家や親族が近くに住んでいれば、育児の支援をしてもらえるかもしれないが、そういう人ばかりではない。育児には不安なことも、困ることも多いから、とにかく手を借りたいと思う。話を聞いてほしいだけのこともあるし、買い物をしてきてほしいとか、お弁当のサービスとか、あるといいかもしれない。
色々心配事は解決できたら次に進めると思うので。
女性も男性も、産休の取り方、周りの理解もまだまだ足りていないと感じるところも多く、安心して、お子さんを産み育てられる環境を整備することもできないと思うから。私の経験からも、娘が第三子を出産した時も、二か月ほど里帰りして娘、産まれた孫、第一子、二子の面倒を見たが、婿の会社が産休が取りにくい会社で、私も仕事をしているため、本当に大変だったこともあり、もう少し行政、企業含め、少子化に柔軟に対応していただける施策等があれば良いなと感じた事も支援が必要だと感じた為。
現在も経済的支援はあるが、出産後のベビーカー、チャイルドシート等準備や服などにお金がかかる為
産業と少子化はセットであると思うからです。
出産だけでなく教育には、なんだかんだでお金がかかる。
産休や産休制度を整えることや、産休明けの職場復帰の支援を行うことで、妊娠から子育て期間までの長期的な計画を立ててから、子供を作ること考えれるから。
金銭的に余裕がないと、子育ては難しいと思ってしまうし、実際お金がかかるので経済的支援があるとないとでは全然違って来る。
妊娠出産は、経済面での負担も大きいので、少しでもサポートがあれば安心して出産を迎えられると思ったから。
企業の男性側の産休育休への制度と理解がまだまだ足りない。 会社に休めるほどの環境がない。制度と企業の実態に乖離がありすぎる。
やはりお金の問題がいちばん大きい。

妊娠出産時のまとまった費用負担がなくなれば経済的に安心できるから。
出産する病院もない、出産費用も高い、産んでもお金が必要。 子供を増やすには、条件が悪すぎると思います。
女性が活躍できるこの現代社会において、妊娠や出産によって、自分のキャリアが滞る事に不安が大きいと思います。地域で支えたり、夫が育児休暇をとりやすい仕組みを企業によびかけるなど必要だと思います。(主人の会社では育児休暇を男性がとりやすくなっていると聞きました。)
出産費用、育児費用の捻出不安並びに育児休暇の制度化が必須
今、産科が少なく安心して出産出来る環境では無いので、産婦人科の見直しが必要だと思います。
病院も医師も今は少ない。
今は60歳以上の方々も沢山働いている時代なので、出産後の周りの支援の協力も容易ではない。出産後のボロボロの身体で一番必要としてる0か月~4ヶ月までは一時保育も利用できない。 実家がたまたま頼れるような人達は良いが、そこからあぶれてしまった人、シングルマザー、なかなか里帰り出産ができない移住者等の人達も安心して出産後もサポートしてもらえる体制になったらいいと思ったからです。
私自身がそう感じているから。 出産後に職場復帰する人もいるが、できない人もいる。子供が少し大きくなり働くこととしても、子供の土日祝、長期休暇に出れないと言う理由で採用されない。
産婦人科は、病院というより、リラックスして子育てに喜びを感じるような場所であってほしい。公立病院の施設では、望めないシャワールームや、授乳室、食事をサービスしてくれるところがあったら良いと思う。バブル時代のせいかな、私の出産時はそうしたサービスで、産婦人科を比べて選べた。
出産から産後は様々な困難や不安があるから。
子供を育てていて、周りの理解が得られる場所が限られていると思います。表向きは理解をしてくれていても実際子供の病気等でお休みを貰ったりが続くとそこで働く事が難しい会社が多い気がします。そうすると短い時間や少ない時間でしか働く事が出来なくて、2人目3人目の生活費を捻出するのは難しいと思いました。
初めての妊娠・出産は大変だと思いますので、それを支援するサポート体制の整備。2人目、3人目の妊娠・出産のためには、金銭面の支援が必要と考えました。
多方面からのサポート 保育園に入りやすくするなどの支援が必要
働かないと生活できないし、結婚出産しても離婚する人が多くて、シングルでは子育てが難しくなってる。
財政面でのサポートと地域のサポートにより、母子の負担を減らした方が良い。
妊娠、出産によって、プライベートでも仕事でも優先順位が(産前は自分→パートナー→仕事→家事だったが子供→家事→仕事→パートナー→自分)へと変わる。 パートナーは子供が生まれてからもなかなか優先順位が変わらず、理解してもらうまでに時間と労力を要する。またどれだけ説明共有しても、昔からの文化「男は仕事、女は家庭」が本人社会共に抜け切れておらず、平等な家事育児とは言い難い。 そんな時に男性女性問わず産休・育休制度の充実(特に新生児~1歳までを手厚く)、妊娠出産のみならず経済的負担の軽減が、(お金がなければ休めない)社会とパートナーを分断する手立てだと考える。ただし、たくさんは必要ないと思う。

初めての妊娠のときとても不安で誰かに話を聞いてほしい、相談したいと思ったけれど相談できる場があることは知っていたけれどなかなか活用できなかったのもっと気軽に相談できる場があれば友人を作れる場があればいいなと思ったので。あとはやはり経済面が一番の問題で、産んでもこの先長く子どもにお金がかかり過ぎて育てられない、納得のいく教育を受けさせてあげられないという理由で子どもを諦めざるおえない事が多々あるので。

産休や育休への社会的に理解は、若い層ではかなり進んで来ていると思いますが、むしろ育児が終わった高齢世代から、自分達の時代はそうでなかったとの批判が多いと感じますので、社会全体の仕組みに落とし込む必要があります。

出産後の経済的不安がなくなれば若い人が働きながら妊娠、出産にもっと前向きになると思う。

私自身が初出産時に多くの不安を抱えていたので、その不安要素を少しでも減らせたらと思ったため。

核家族化が進み、また個人の生活が重視される余りに、周りに相談できる人が少なくなっているのではないかと？母親だけでなく、父親になるための不安を軽減させるコミュニティに出産前の夫婦で参加できる機会を増やす。そもそも、出産前だけでなく、家族が増えることへの不安以上に、家族が増えることの幸せや喜びを知ってもらう機会を増やした方がいい。

実家が市外にあるなど、パートナー以外にすぐ頼れる人がいない場合、地域のサポートが充実していると心強いと思うため。

子供を産み、育てて行く上で必要だと思います。

妊娠、出産による環境変化は収入にも影響が出ますので、一時的にそれを補助することは社会の役割かと思います。

出産しやすい環境は自分で作ればいい。産みたい人たちが自分でどうにかすればいい問題で行政が介入する必要はない。

少子化支援の充実と経済的負担軽減をセットにしないと、最大限の効果が期待できないから。

産休、育休のあと仕事に戻るとしても、一年だと短いと思う。戻りたいタイミングは人それぞれだと思うので、3年とか5年とか企業側が長く待っていてくれたら安心して出産出来るのではないのでしょうか。

●全員に伺います。

問5 少子化対策として、どのような支援を充実させればよいと思いますか。
(複数選択)

選択項目	回答数
1 進学のための奨学金給付	12
2 若者の就労支援	11
3 出会いや結婚への支援	19
4 妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制の強化	22
5 産後ケアの充実	9
6 子育てを地域で見守るコミュニティの充実	14
7 子育てに関する相談、サポート体制の充実	18
8 育児休暇制度の充実(期間の延長など)	10
9 男性の育児休暇取得の推奨	17
10 子どもの人数に応じた経済的な支援	17
11 保育所などの預け先施設の充実	15
12 企業による育休明けの働き方に関する支援	13
13 育児や住宅に対する資金貸与や補助支援	7
14 長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、育児時間の確保	8
15 妊娠や出産による離職者の再就職等の支援	9
16 育児休業制度等の取組の推進	11
17 放課後児童クラブ等の支援(時間・受入れ学年等)	16
18 屋内外のこどもが遊べる場所の整備	9
19 こどもの貧困、ヤングケアラーなど家庭支援の充実	10
20 支援は必要ない	1
21 その他(自由記述)	

●全員に伺います。

問6 今後、人口減少が進む中、富士宮市が力を入れるべき取組は何だと思えますか。
(複数選択)

選択項目	回答数
1 森林や河川など、自然環境の保全	5
2 脱炭素社会(ゼロカーボン)の実現に向けた取組	0
3 移住、定住対策の充実	16
4 企業誘致による産業振興や雇用対策	14
5 子育て・健康づくり施策の推進	22
6 保健・医療体制の充実や施設整備	16
7 教育環境の充実	10
8 スポーツ・レクリエーションなどの施設整備の充実	2
9 道路などの都市基盤の整備充実	3
10 景観や街並みの保全	4
11 公園緑地の整備充実	9
12 公共交通の整備	6
13 世界文化遺産富士山や豊かな自然、食材を活用した観光の推進	7
14 町内会やお祭りなどの地域コミュニティ活動の充実	4
15 行政サービスのデジタル化の推進	2
16 先進的技術を活用したスマートシティの推進	3
17 その他(自由記述)	

●全員に伺います。

問7 結婚を希望する人が、参加したいと思う婚活・出会い・交流の取組を行うとしたら、どのような取組が良いと思えますか。(自由記述)

今、流行しているキャンプなどのアウトドアイベントを行う。趣味の括りでグループを分けたりするのもいいかもしれない。例えば、アニメ、ゲーム、アイドル、バンド等音楽、本など。料理など共同作業したりするのがいいと思う。
自然な出会い・ボランティア活動等
以前の旧児童館にて 勤労青少年のための講座が夜7時から9時にあり、その交流で結婚した方は何組もいます。そのような講座を知らない方も多かったので、今後そのような講座等ある際は 周知の仕方も大切かとおもいます。
富士宮の婚活パーティーは行った事があるが、やってる事が逆過ぎて中々楽しめない。そして回数が少ない。初めに参加者に本名じゃなくてニックネームのワッペンを作って貰ってからレジャーをやる→それから個人個人時間を設ける→それから自由に昼食を取って→カップリングする流れがいいと思う。 婚活パーティーに慣れてない人が多いからまずは打ち解ける事を前提にしてやってみると良いと思う。
はっきりと婚活パーティー！みたいなものではなく、お友達作り！みたいな感じでガツガツしすぎていないスポーツ大会や、お食事会、山登り、ボウリング大会、市内ウォークラリー等のイベントが良いと思えます。

スポーツ観戦婚活。
出会いの場自体は無理に作る必要はない。そこは民間に任せればよい。
テーブルを囲み談話ができるコンサートの開催、市内一斉同窓会の出席アンケート割合で開催。
出会いの場や機会が少ないので、制限の少ない条件の交流の場所があったら良いと思います。
富士山登山とか富士宮市ならではのイベント
富士宮市の観光や自然のキャンプを取り入れた婚活や交流。
お見合い回転寿司（多くの人と接する事ができる。）
結婚を希望する人と限定されると、別にしたいわけじゃないと参加者が減ると思う。若者が参加したいイベントを増やして、出会いの機会をつくる方が良いと思う。参加者に事前に相性診断をして共同作業をするようなイベントを行い、確率を高める。市内限定にしないで、結婚するなら家を無料で提供するなど、特典をつけて、移住をしてもらう。
大々的なイベントではなく毎週のようにどこかの居酒屋やカフェなどで簡単に行えるもの
富士宮は縁が多く場所もあるので、バーベキューとかあれば色々な人が出会うんじゃないでしょうか？かしこまりすぎると若い子は来ない気がします。
①既に実行されている内容とは思いますが、お見合い大作戦の実施。 ②歩け歩け、キャンプ、バスツアー旅行、富士登山等のイベントの実施。 ③気軽に参加できるじゃんけん大会、ビンゴ大会等の実施。
個人の自由
気軽に参加できる。
BBQやキャンプ
自然に触れるレクリエーションも良いが、インドアで会話の必要ないゲームや漫画などで時間を共有することも一つの手だと思う
犬好き集まれ!とかアウトドア趣味の方集まれ!などテーマに分けて募集をして同じ趣味の方との交流が持てる。 バルみたいいろいろなお店に協力してもらい富士宮名物をみんなで食べて飲んでお話ししましょうみたいな気軽に参加できそうなイベント。
市内の健康ウォーキングとか、酒蔵ツアーとか、富士宮の立地を活かした活動が良いと思います。
趣味を通じての出会い。結婚希望の人限定の講座を開く。
スポーツ等趣味を通じた出会いの場の提供や、若者が参加したくなる地域イベント(音楽フェス等)身構えずに参加できるもの。
婚活や出会いイベントも効果がないとは言わないが、場をセットしただけでは結婚相手が見つかったけれどもここに住むとは限らない。 この地で暮らしたい、この街で働きたいと思えることの方が大事。
市内の観光名所などをツアー形式で周るような婚活イベント。婚活だけでなく、地域の魅力も発信できて良いと思う。
各地区の同窓会の支援
現代は様々な手段があるので、切に結婚を望んでいる人は自ら行動を起こしていると思います。行政として中途半端な対策に予算を使うのは大した結果にも繋がらず無駄だと思います。

市がマッチングアプリをつくれれば良いかと・・・。
参加するだけで気軽に多くの人と出会う交流の場を提供する事
個人情報で安心できる集まり
未婚の人や若い人の意見をよく聞いて参考にすべきだと思います

●全員に伺います。

問8 富士宮市の少子化への対応について、アイデアや意見などがありましたら教えてください。（自由記述）

まずは今、住んでいる人が、進学などで他県へ行ったとしても、富士宮へ戻ってくる、戻ってきたいと思うようにすることが大事だと思う。私が以前住んでいた町では、お祭りが盛んで、みんな大人になっても、そのお祭りに参加したくてその町に住んでいる人が多かった。老若男女そのお祭りが大好きで、みんなお祭りを楽しみにしていた。富士宮の各地でも、ここに住んでいれば、このお祭りがある、このお祭りがあるからここにいたい、と思えるような町づくりをすることが大事だと思う。それが、結婚、出産につながると思う。
学校でしっかり教えるのが1番効果的だと思います。 子供を持つにはリミットがある。
少子化対策はとても大事ですが、それが高齢者支援にもなり得る施策があれば良いと思います。もう譲渡してしまいましたが、私は以前、沼津市で高齢者介護士施設を運営していました。沼津市は高齢者の独居率は当時、約60%近かったと思います。
現在も様々な対応が有り難いです。日本全体が少子化の問題ありありで、どうにか出来ないものかと思う所です。賃上げとニュースで聞くものの、地域格差や職種の違いが大きく全く対象外。物価高もあり、厳しい現実です。政府の対応が変わらない限り、国民の士気も上がりません。
企業誘致→交通の便の解消→働きやすい町作りを行う
幼稚園から大学まで無償化
産婦人科の選択肢がないのをどうにかすべき。（なかなか難しい問題ですが…）
これから人口が減ることは確実ではしょうがない。過疎地域も過疎が進むのは仕方がない。その代わり人が集まる地域にはいろいろな設備を充実させる。やはり経済的なところが大きいのでやはり働く場所が必要、企業誘致を進める。また大学や企業の研究施設などを誘致するのもよいと思う。
とにかく、無駄な施設を作るお金があるならその分を子供達のために。
出生支援の充実、育児費用の無償化を新設検討
補助金を親に渡すのではなく、そのお金を給食無料化に出来ないのか？
長泉の真似をしたらと思います。
病児保育の促進。仕事との両立出来る環境の促進。院長高齢化による病院等の閉院が市で目立ちます。小児科を卒業する頃の子供の年齢になった時この市はどうなってしまうんだろうという不安が大きいです。

里親制度や奨学金制度の充実、赤ちゃんポストの設置、など、生まれて来た子供を大切にしている取り組みを重視して養子縁組などを積極的に推進してみてもどうかろう。大手企業に、地元採用を増やしてもらおう、大学進学をしても地元に戻って来れない状況を解消する。リモートワークで戻って子育てしたいと思えるような市とする。サテライトオフィスを誘致する。リモートワーク用のオフィスを提供する。工場ではなく、どこでもできる仕事を誘致する。子供の習い事の種類の種類や機会を増やす。スポーツチームの練習場、宿泊施設を作る。プロスポーツチームを誘致する。

子育ての支援がすくなく遊び場もすくない、高齢者支援よりもかなり比重を重くする必要はある

東京の様に子供が居る世帯に給付金が子供手当以外にも出ると少しでも楽になると思います。
給食費無料とか…。学校で揃えなきゃいけないものも、少ししか使わない物などはわざわざ買う必要があるのか？と思う物もありました。新品がいい人は買えば良いし、使わない家庭から学校に寄付してもらったりしても良いんじゃないかな？1人ずつ必要かな？と思う物も中にはありました。（算数BOX、カスタネットなど…。）

- ①結婚を促すため、例えば40才を超えても独身の人にはより多くの税金（例えば住民税）を払ってもらおう。そのお金を子育て支援に回す。多くの税負担をするくらいなら結婚しようとなることを期待した制度を設ける。市だけでは対応が難しいので、国と一緒に検討したらどうでしょうか。
- ②子供が急病になったとき、会社を休まないですむような預り施設の増設。特に2人目、3人目の子供を作る際に大きな力になると思います。
- ③企業誘致により人口増加を図り、子供の増加へつなげる。

母親へのサポート態勢と保育園の充実のアピール

子供医療費無料化
500円取る必要なし

自然に触れるレクリエーションも良いが、インドアで会話の必要ないゲームや漫画などで時間を共有することも一つの手だと思う

公園の整備や遊び場、交流の場など増やしていただいで感謝しております。子育て中でも気軽に受けられる資格講座や子育て中の方歓迎の職場の紹介など就労についての相談や子どもの預け先の相談などが気軽にできる場などの案内などがあると仕事復帰したい時に心強いです。

祝日に休みでは無い製造業が多いので、短期間で子供を預ける場所や、子供食堂など地域とのつながりを感じられる場所の提供を希望します。例えば工場などは社員食堂もあるので、安価な食事の提供は可能と思います。
私はシャトコに勤めていますが、是非連休期間中に子供食堂を開き、社員が宿題を手伝うなど出来ると良いと思っています。

我が町の最大のお国自慢はやはり富士山とその周辺の自然に恵まれた環境。若者を集めるには単発的なイベントも効果がないとは言わないが、活気のある街に共通していることの一つとして大学がある街には若者が集い定着することで街に活気が宿る。首都圏のマンモス校の、環境教育や農業関係等一部の学部でも誘致できないか？若者が集うところにはアイデアが湧き、人を集めるエネルギーが湧く。高校会議所の皆さんの活躍も素晴らしいが、高校生には自発的なアイデアを自らの力で動かすにはまだ制約が多すぎる。社会人には、時間の制約とエネルギーが分散化してしまうので一極集中しづらい。やはり大学生の力が必要であろう。若者のニーズは若者自身が一番わかっている。そのアイデアを実現する支援を官民が後押ししてあげる街になったらこの街に定住する若者は増えるし、少子化の歯止めはかけられると思う。学生が皆、大企業志向ではない。コロナ禍以降リモートワークが社会で承認され、場所を選ばず働くことができるようになった。都会暮らしへの憧れは一時的なものであり、定住するには環境のいい場所という若者や若い夫婦は少なくない。富士宮市はまさにうってつけの環境ではないか？ また、街中の、浅間大社を中心としたエリアは美観エリアではあるが、家を建てて住むのに良いか？となったら経済的負担は大きいし、狭いし、ごちゃごちゃしている。街中は空き店舗対策をして、格安でお店を経営できるような施策を打つことが急務。神田通り以外は廃れていく一方。（申し訳ないが西町商店街の景観は既に廃れていくエリアの見本のようなもの。）若者が住むにはやはり北部エリアの方が魅力的だろう。しかし、市街化調整区域というレッテルが開発と発展の邪魔をしていることは間違いない。そろそろこの足枷を見直さなければ富士宮市の発展はないと思った方がよい。素晴らしいロケーションを提供すれば若者のアイデアによって有効活用されるであろう。北部の発展がなければ公共交通網も敗戦の一途をたどる。北部エリアの開発を真剣に考えるべき時期である。

子供を産める環境整備、産む場所が市立病院しかないのは、大変影響していると思います。

少子化の最たる要因は可処分所得の減少だと考えます。平均寿命が伸びることでの高齢者の増加、それに伴う医療費等の社会福祉費用の負担増大が現役世代やこれから家庭を持つ世代にとって大きな負担となっています。じいじばあばからの支援などでかろうじて子育てが成立していたバランスも、中高年世代の経済状況の悪化により崩れているのが現在です。この状況はこの先ますます悪化することと予想します。家庭や子供を設けるという未来図が描けないような経済状況を改善できない限り、少子化にブレーキは掛かりません。少子化対策予算のために税負担が増えるようなことがあっては本末転倒であり解決にはなりません。限られた予算を有効に使うことでまずは一人一人の負担を減らし、長期的に人口を増やすことで結果的に予算が増えて行くように考える必要があると思います。そのため私の回答の全般は、安易で効果が限定的な施策を好まないものとなっています。

上述のアンケート内容を実践するだけで、十分な効果が期待できると思います

子供は数人いた方が子供達が楽しいと思うので、女性に産まれた方は出産、育児は、大変だけど、楽しいことも沢山あるとアピールしたい

「少子化への対応」について

市政モニター 氏名	
-----------	--

設問番号	回 答 (回答番号を記入してください)	
問1		一つ
問1-2		全て
	12 その他	自由記述
問2		全て
	12 その他	自由記述
問3		全て
	9 その他	自由記述
問4		一つ
	5 その他	自由記述
問5		全て
	21 その他	自由記述
問5-2		自由記述

裏面に続きます。

問6			全て
	17 その他		自由記述
問7			自由記述
問8			自由記述

※最後に、氏名欄の記入漏れがないかももう一度ご確認ください。

アンケート回答用紙に氏名と回答を記入し、回答用紙のみを広報課にお送りください。
 広報課 広聴広報係 tel : 22-1119 fax:22-1206 Eメール:koho@city.fujinomiya.lg.jp

令和5年度 第3回市政モニターアンケート

「少子化への対応」の集計結果からの考察

問1・1-2 人口減少や高齢化への不安

ほとんどの人が人口減少や高齢化などの人口問題に不安を感じている

回答者40人のうち38人(95%)が、人口減少や高齢化といった人口問題に対して「非常に不安」もしくは「まあまあ不安」と回答した。

不安と回答した人に、どのようなことに不安があるのかを聞いたところ、「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障にかかる個人の負担増」と回答した人が29人(76%)と最も多く、人口減少の影響が個人の負担にも及ぶことに不安を感じている人が多いことがわかった。

次いで、「地域を支える担い手の不足や地域活力の低下」と回答した人が19人(50%)、「過疎化の進行による土地の荒廃」と回答した人が15人(39%)であった。このことから、人口減少によって地域の活力や環境が変わってしまうことへの不安を感じている人も多いことがわかった。

問2 少子化が進む要因

企業や地域全体で子育てを支援する意識を醸成していくことが必要

少子化が進む要因を聞いたところ、「子育てと仕事の両立が難しいから」と回答した人が、29人(73%)と最も多かった。子育てと仕事を両立するためには、周囲の協力や家事・育児の時短、仕事の選び方など、さまざまな要素が関係してくることから、今後より一層、企業や地域全体で子育てを支援する意識を醸成していくことが必要となる。

次いで多かったのは、「未婚化・晩婚化が進んでいるから」と回答した人が28人(70%)、「収入が低いから」と回答した人が27人(68%)であった。このことについては、未婚者が結婚願望をもっていないわけではなく、内閣府の調査でも、結婚していない男女のうち、7割以上の人が「結婚したい」と回答していることから、今後より一層、結婚を望んでいる人が、経済的な不安を克服して、結婚を実現できるようにしていく支援が重要となる。

問3 未婚化・晩婚化への対策

結婚を前向きに考える人への幅広い支援が必要

未婚化や晩婚化に歯止めをかけるために必要な取組を聞いたところ、「子育て・教育にかかる経済的支援」と回答した人が29人(73%)と最も多かった。このことから、金銭面に対する不安が、未婚化や晩婚化に大きな影響を及ぼしていると考えられる人が多く、公的な経済的支援への期待が大きいことがわかった。

次いで多かったのは、「子育て支援(仕事と子育ての両立支援など)」と回答した人が19人(48%)、「出会いや交流機会の創出(趣味の講座やレクレーションの実施など)」と回答した人が18人(45%)であった。このことから、時代とともに、女性の社会進出によって男女間の格差がなくなってきたことなど、社会的背景による結婚に対する意識の変化が関係していると考えられる。

結婚への意識は、「できない」ではなく「しない」という選択をされている人が多いのも事実だが、一方で、「結婚したくてもできない」と感じている人も多くいる。

晩婚化・未婚化を原因とする少子高齢化は社会全体の課題でもあるので、結婚を前向きに考えたい人への幅広い支援が必要となる。

問4・4-2 出産しやすい環境への支援

産休・育休制度取得で同僚や会社への負担が生じない方策が必要

出産しやすい環境への支援を聞いたところ、「産休・育休制度の充実」と「妊娠・出産時の経済的負担の軽減」と回答した人がそれぞれ24人（60%）と最も多かった。

自由記述でも、産休・育休制度取得への理解を促すことや妊娠出産時の経済的な支援の必要性を挙げる意見が多くあった。特に、男性の育休取得への理解は、まだまだ低いとの指摘が多かった。産休・育休制度取得への理解を得るためには、育休を取得する本人だけでなく、周囲の同僚などへの負担軽減や従業員を休ませる会社の負担軽減の措置が必要だと考えている人がいることがわかった。

また、子育て世代が子育ての基本的な費用や大学までの教育費、自分たちの将来の生活費など、長期に渡る不安を感じていることから、経済的支援が重要だと考えている人が多いことがわかった。

問5 少子化対策として充実すべき支援

妊娠から出産・子育てまで個々の実情に応じた支援制度の充実が必要

少子化対策として充実すべき支援を聞いたところ、「妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制の強化」と回答した人が22人（55%）と最も多く、妊娠や出産時期は経済的にも精神的にも負担が大きいと考える人が多いことがわかった。

次いで多かったのは、「出会いや結婚への支援」と回答した人が19人（48%）で、経済的な背景やライフスタイルの多様化など、個々に意識や状況が違うことから、個々の実情に応じた出会いや結婚への支援が必要だと考えられる。

また、その他「子育てに関する相談、サポート体制の充実」や「子どもの人数に応じた経済的な支援」と回答した人も多かったことから、個々の子育ての実情に応じた幅広い支援制度の充実を望む声が多いと推察できた。

問6 人口減少が進む中で力を入れるべき取組

人口が減っても健康や医療に対して不安のないまちを要望

人口減少が進む中で富士宮市が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育て・健康づくり施策の推進」と回答した人が22人（55%）と最も多く、次いで「保健・医療体制の充実や施設整備」と回答した人が16人（40%）で、人口減少が進んでも、健康や医療に対して不安のないまちを望む人が多いことがわかった。

その他「移住、定住対策の充実」や「企業誘致による産業や雇用対策」に力を入れるべきと回答した人も多かったことから、市外から人を呼び込み、社会増を増やす取組が必要だと考える人も多いことがわかった。

問7 結婚を希望する人が参加したいと思う婚活・出会い・交流の取組

気軽に参加できる取組で若者の出会いの機会をつくることが重要

結婚を希望する人が参加したいと思う婚活・出会い・交流の取組について聞いたと

ころ、全般的に、いわゆる婚活イベントといったものではなく、趣味の集まりや友達づくりに近い、自然な出会いが生まれる取組の提案が多くあった。

具体的に提案のあった取組をキーワードとして挙げると、アニメ、ゲーム、アイドル、音楽、本、食事会、山登り、ボウリング、ウォークラリー、スポーツ観戦、コンサート、キャンプ、バーベキュー、歩け歩け、バスツアー、富士登山、じゃんけん大会、ビンゴ大会、漫画、犬好き、バル、健康ウォーキング、酒蔵ツアー、音楽フェスなどがあった。

また、取組は、結婚を希望する人に限定したものだけでなく、若者が気軽に参加できるイベントを増やし、出会いの機会をつくることが重要だと考えている人が多いことがわかった。

問8 富士宮市の少子化へのアイデアや意見

地域の実情に応じた実効性のある独自の施策が必要

富士宮市の少子化へのアイデアや意見を聞いたところ、経済的支援や相談体制の充実、産婦人科や医療機関の確保、大学や企業・サテライトオフィスの誘致、子育てしながら働きやすい環境の整備、子どもの預け先の充実、子ども食堂、里親制度の充実、奨学金制度の充実など、多岐にわたる多くの意見があった。

本市のこれまでの少子化対策は、子育て支援施策の充実は図られているものの、結婚の希望を叶える支援や妊娠・出産に伴う経済的・精神的負担の軽減、子どもを産み育てたくなるような環境の整備など、まだまだ取り組むべき課題が多岐にわたっていることを改めて認識した。

引き続き、富士宮市少子化対策推進本部を中心に、関係部署が連携し、強い危機感を持って、地域の実情に応じた実効性のある独自の少子化対策を企画・立案していかなければならない。

令和6年度 新たに実施（拡充）する少子化対策関連事業

分野	事業名	内 容	財源（補助率等）	担当課
出会い・結婚	出会い・交流応援事業【2,570千円】	・出会い交流イベントとして、新たに著名な婚活コーディネーターを講師に招いたセミナーを開催。	地域少子化対策重点推進交付金（国）2/3	女性が輝くまちづくり推進室
	勤労者福祉事業（勤労者の出会い交流促進事業）【600千円】	・新たに富士宮市勤労者共済会（ハピネスふじやま）の事業に、出会い交流イベントを追加。 ・中小企業で働く人の出会い交流を促し、勤労者の福利厚生の上をを図る。		商工振興課
	結婚新生活支援事業【15,244千円】	・結婚に伴う新生活のスタートに係る居住費、引っ越し費用の補助。 ・新たに30歳～34歳の世帯への上限額を30万円増額。	地域少子化対策重点推進交付金（国）2/3	地域政策推進室
産前・産後	母子教育・相談事業（産後ケア事業）【2,932千円】	・助産院に通院して2時間程度の短期支援を受けるメニューを追加。 ・利用促進のため利用者負担の軽減	国補助 1/2	健康増進課
	産婦人科・小児科病棟環境改善事業【27,324千円】	・新たに市立病院の産婦人科、小児科の環境改善（浴室やトイレの改修等）を実施。		病院管理課
子育て・育児	子ども医療費助成事業（子ども医療扶助費）【563,333千円】	・子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、令和6年10月から、18歳未満の児童に対する子ども医療費を完全無償化とする。	県補助 1/2～1/4	子ども未来課
	都市公園等整備事業（外神東公園整備）【170,000千円】	・外神東公園に、新たに市内最大規模の大型遊具を設置し、市内外の子育て世帯向けに憩いの場を整備。		花と緑と水の課

子育て・育児	学校給食運営事業 (学校給食費負担軽減対策)【48,775 千円】	・給食賄材料費のうち物価高騰分を市が補てんすることにより、保護者の経済的負担を軽減。	物価高騰対応重点支援 地方創生臨時交付金 (国) 10/10	学校給食センター
	市立保育所運営事業、施設型保育事業、地域型保育事業、幼稚園施設型保育事業 (給食費負担軽減対策事業)【22,857 千円】	・給食賄材料費のうち物価高騰分を市が補てんすることにより、保護者の経済的負担を軽減。		子ども未来課
	子ども・子育て会議運営事業【10,288 千円】	・国のこども大綱に基づくこども計画を策定するとともに、新たにこども家庭統括監を配置。		子ども未来課
	少子化問題に関する情報収集	・市政モニター制度等を活用し、少子化に関するテーマについて、市民から意見を収集。		広報課
	結婚・出産・子育て情報の効果的な発信	・広報ふじのみや等で、少子化に関するテーマについて、情報を発信。		広報課
	結婚・出産・子育て情報の効果的な発信	・「宮っ子育てガイド」(ゼロ予算で6,000冊発行)を活用し、新たに若者へも配布。		子ども未来課
雇用環境	母子教育・相談事業 (父親の育児参画応援事業)【3,440 千円】	・新たに父親の育児参画応援ハンドブックを作成し、育児への父親参画の必要性について広く啓発。	ふじのくに 新・少子化突破展開事業(県) 1/2	健康増進課
	UIJターナー者就業支援事業(ジョブマッチングサイト事業)【1,000 千円】	・UIJターナー者の就業を促進するため、新たにジョブマッチングサイトを創設。		商工振興課
	UIJターナー者就業支援事業(キャリア教育支援事業)【400 千円】	・新たに児童・生徒へのキャリア教育支援を開始。		商工振興課

移住・定住	移住・定住促進事業 【13,200 千円】	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに 29 歳以下の夫婦に対する移住・定住奨励金を増額（最大 200 万円）。 ・新たに若者の移住を促すため、新たなプロモーション事業を実施。 	ふじのくに新・少子化突破展開事業（県）1/2	地域政策推進室
	地域間交流事業（若者チャレンジ支援施設管理運営事業） 【12,000 千円】	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が移住や起業の体験を行うことが出来る場所を開設。 ・若者が地域の商店主や中小企業経営者、イベントクリエイターなどの様々な人と交流する機会を創出することにより、市内への若者の定住に繋げる。 	ふじのくに新・新少子化突破展開事業（県）1/2	地域政策推進室
保育士確保対策	市立保育所運営事業（新規卒業者の確保・就業継続支援事業） 【1,500 千円】	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士人材を安定的に確保するため、保育士確保を目的としたイベントの開催や出展を行う。 		子ども未来課
	施設型保育事業、地域型保育事業（保育対策総合支援事業） 【21,720 千円】	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の業務負担を軽減し、離職防止を図るため、保育補助者（清掃業務や給食の配膳など）を雇用する保育所等に補助金を交付する。 	保育対策総合支援事業費補助金（国）1/2（県）1/4	子ども未来課

富士宮市の人口動態調査

【日本人】

(対象：1月～12月)

(人)

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	前年比
転入	3,375	3,177	3,103	3,026	3,118	3.04
出生	818	719	697	665	600	△ 9.77
転出	3,588	3,455	3,360	3,390	3,409	0.56
死亡	1,475	1,483	1,437	1,620	1,695	4.63
社会動態(転入－転出)	△ 213	△ 278	△ 257	△ 364	△ 291	△ 20.05
自然動態(出生－死亡)	△ 657	△ 764	△ 740	△ 955	△ 1,095	14.66
その他の増減	18	24	9	14	8	△ 42.86
増減	△ 852	△ 1,018	△ 988	△ 1,305	△ 1,378	5.59

【外国人】

(対象：1月～12月)

(人)

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	前年比
転入	912	607	502	1,214	1,199	△ 1.24
出生	14	12	13	12	9	△ 25.00
転出	623	562	582	812	899	10.71
死亡	3	5	6	2	10	400.00
社会動態(転入－転出)	289	45	△ 80	402	300	△ 25.37
自然動態(出生－死亡)	11	7	7	10	△ 1	△ 110.00
その他の増減	△ 110	△ 110	△ 82	△ 10	△ 2	△ 80.00
増減	190	△ 58	△ 155	402	297	△ 26.12

【全体】

(対象：1月～12月)

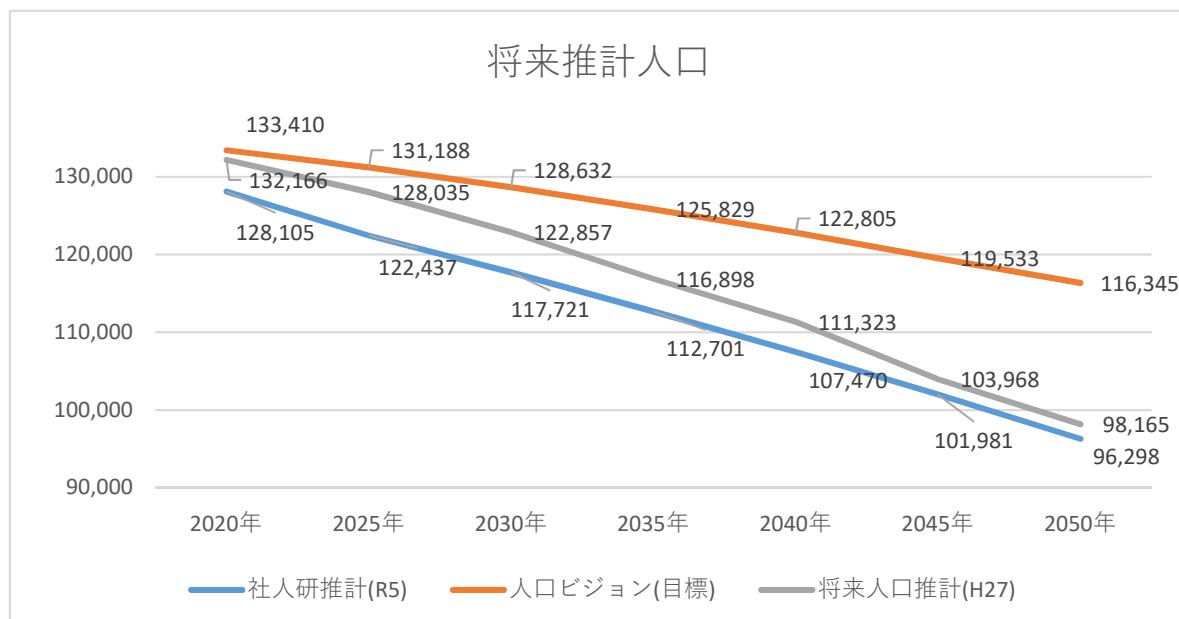
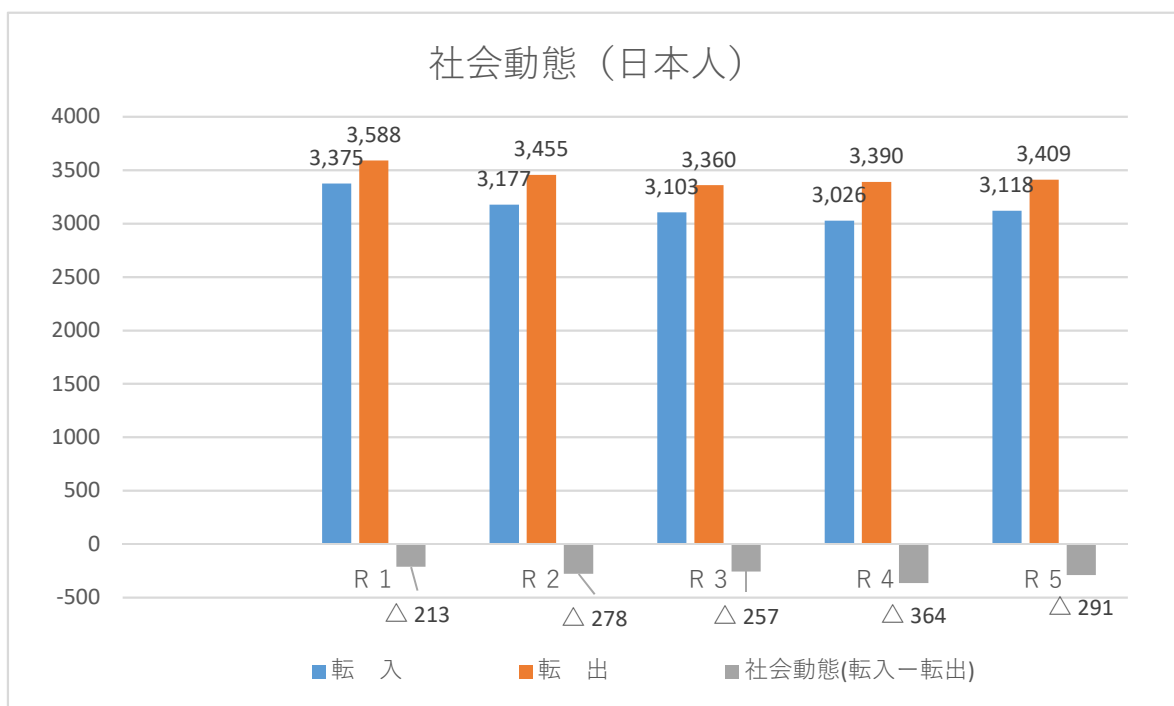
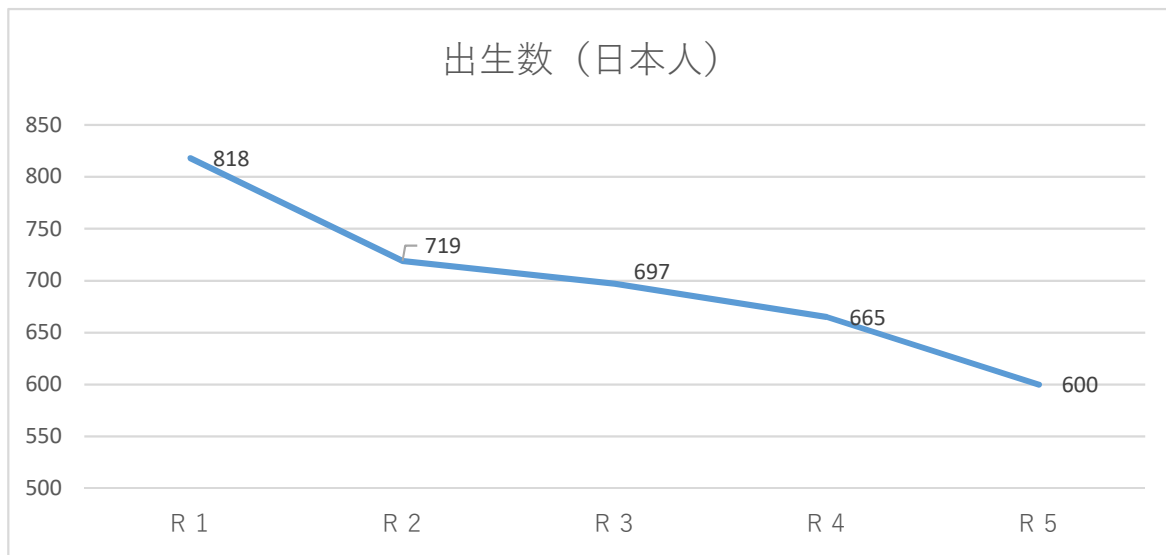
(人)

	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	前年比
転入	4,287	3,784	3,581	4,223	4,284	1.44
出生	832	731	710	677	609	△ 10.04
転出	4,211	4,017	3,857	4,135	4,239	2.52
死亡	1,478	1,488	1,443	1,622	1,705	5.12
社会動態(転入－転出)	76	△ 233	△ 276	88	45	△ 48.86
自然動態(出生－死亡)	△ 646	△ 757	△ 733	△ 945	△ 1,096	15.98
その他の増減	△ 92	△ 86	△ 61	△ 46	△ 30	△ 34.78
増減	△ 662	△ 1,076	△ 1,070	△ 903	△ 1,081	19.71

将来推計人口 (国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口)

(人)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研推計(R5)	128,105	122,437	117,721	112,701	107,470	101,981	96,298
人口ビジョン (目標)	133,410	131,188	128,632	125,829	122,805	119,533	116,345
将来人口推計 (H27)	132,166	128,035	122,857	116,898	111,323	103,968	98,165



令和 5 年度 第 5 回富士宮市少子化対策推進本部幹事会 議事録

日 時：令和 6 年 2 月 16 日（金）午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分

場 所：市役所 6 階 620 会議室

出席者：企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、芦澤、市川
広報広聴係長、工業振興・労政係員、福祉企画係長、子育て支援係長、母子保健係
長、学事係長、女性が輝くまちづくり推進室員、地域政策推進員

次 第：

1 開会

2 幹事長（企画戦略課長）挨拶

3 議事

(1) 市政モニターアンケート（少子化への対応）の結果について：事務局から説明
（学校教育課）

- ・アンケート結果で、出会いの機会を期待している人がいるのだと感じた。「アニメ」や「ゲーム」など趣味等を絡めて出会いの場を希望している人が多かった。

（福祉企画課）

- ・自分の課では、直接対策事業を実施していないが、やはり継続していくことが大切だと思う。
- ・いろいろな制度や策はあっても、タイミングや実情により実施する余裕がなかったり、例えば休む権利はあるが、自分が休むことで周囲への影響や負担が大きいとその権利を行使できなかったりする。

(2) 令和 6 年度新たに実施（拡充）する少子化対策関連事業について：事務局から説明
（健康増進課）

- ・現在、父親の育児参画応援事業で県補助金を使いアンケート実施中。母力向上委員会の協力のもと子育て世代にアンケートを実施しているが、男性の回答が少ない。男性職員に協力いただきたい。
- ・母力向上委員会では、企業へのヒアリングを実施する予定となっている。また、広報ふじのみやで、毎月育児や子育て分野の特集を組んだほうがいいのか、との意見をもらったため、広報課と協議中。

（商工振興課）

- ・ハピネスふじやまが実施する出会い交流イベントは、令和 6 年度に 3 回行うため、市も PR していきたい。勤労者共済会員のみならず、一般の方も参加していただくよう周知している。
- ・市公式 LINE について、ジャンル別に情報が見ることができるが、「出会い・交流」

がないため、作ってもいいのではないか。入口ができれば、市民交流課の「宮恋」のページへも誘導できる。PR や LINE については、広報課にも協力をお願いしたい。

(広報課)

- ・市公式 LINE の入口については、これから整理することとなっているため、その中で出会い・交流の項目を追加できるよう検討する。ハピネスふじやまの出会い交流イベントについては、募集期間中に市 HP にバナーを貼ったり、LINE のイベントのお知らせを活用していきたい。

(女性が輝くまちづくり推進室)

- ・ハピネスふじやまとは、意見交換をしている。現在、女性が輝くまちづくり推進室のページで、ハピネスふじやまのイベント情報などをリンクさせている。

(子ども未来課)

- ・令和 6 年度以降の次の展開としてなかなかいい案が浮かばない。子ども食堂や子どもの学習支援など子どもの居場所づくりに対する支援と、経済的支援を実施していくことが大切ではないか。

(地域政策推進室長)

- ・情報発信の仕方が非常に大切。市民だけでなく、外の人への伝え方も。特に単体ではなくパッケージとして複合的に出していくことも大事と思う。

(地域政策推進室)

- ・育休などの労働体制の整備

(女性が輝くまちづくり推進室)

- ・あまり「出会い」や「婚活」をあまり押し出してしまうと、参加が少ないように感じる。通常の事業の中での出会いを絡めた展開もありなのでは。社会教育課の講座など。

(3)富士宮市の人口動態統計について

(企画戦略課)

- ・外国人が増えていることに目を向けて、他市と差別化していくのも 1 つの方法ではないか。

4 その他

- ・今年度の会議は終了
- ・来年度以降も継続して協議していく